

## 実施学科課程表 学部共通科目(17生以降)

専門基礎科目(経済学科・経営システム学科・地域システム学科) (令和5年度)

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	担当者	教員免許該当科目	備考
専門基礎科目	経済学入門	2	5	前	◎	基礎	石井・市原・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・テイ・林・海・村山・(非)高山・(非)久保	公民	1
	初級ミクロ経済学	2	5	後	○いずれか1科目必修		村山・小野(宏)	公民	2
	初級政治経済学	2	5	前			海		3
	経営学入門	2	5	前			碓・本谷・藤原・松岡	商業	4
	会計学入門	2	5	前			越智	商業	5
	法学入門	2	5	後	○いずれか3科目必修		金(康)・小山	公民	6
	地域学入門	2	5	後			大呂・高島・山浦・城戸・宮町・包・甲斐	公民	7
	イノベーション・マネジメント入門	2	5	前			渡邊・河野・松隈・豊島・仲本・中本		8

※◎は必修、○は選択必修である。

### 専門基礎科目(社会イノベーション学科)

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	担当者	教員免許該当科目	備考
専門基礎科目	経済学入門	2	5	前	◎	基礎	石井・市原・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・テイ・林・海・村山・(非)高山・(非)久保	公民	1
	初級ミクロ経済学	2	5	後	○いずれか1科目必修		村山・小野(宏)	公民	2
	初級政治経済学	2	5	前			海		3
	経営学入門	2	5	前	○いずれか1科目必修		碓・鶴崎・藤原・松岡	商業	4
	会計学入門	2	5	前	○いずれか1科目必修		越智・小野(慎)	商業	5
	法学入門	2	5	後	○いずれか1科目必修		金(康)・小山	公民	6
	地域学入門	2	5	後			大呂・高島・山浦・城戸・宮町・包・甲斐	公民	7
	イノベーション・マネジメント入門	2	5	前	◎		渡邊・河野・松隈・豊島・仲本・中本		8

※◎は必修、○は選択必修である。

### 学部共通科目

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	担当者	教員免許該当科目	備考
外国語講読	外国語講読	2	5	前	○いずれか1科目必修	中級	木村		9
ビジネス英語	ビジネス英語A	2	5	後		基礎	ホワイト・ブルカート		10 IBP専用科目
	ビジネス英語B	2	5	前		基礎	ブルカート		11 2年生以上 IBP専用科目
特別講義	海外フィールドワーク	2	5*	前		応用	木村		12
	国際学生フォーラム	2	6*	前		中級	小笠原・木村		
	国際ボランティア・ワークショップ	4	不開講			応用			
	IBPプレゼンテーションセミナー	※	5	後		応用	市原・加納・柴田・(非)安田		13 IBP3年生以上
	フィールドワーク入門	2	不開講			基礎			
農山漁村再生論	2	5*	後・集中	基礎		山浦		14	
アドバンスセミナー	アドバンスセミナー	2	5	前・後		応用	各担当教員		15
インターンシップ	インターンシップ	※	5	前・集中		応用	インターンシップ実施委員会		1~4年生対象(3年生優先)
社会人講義等	四極会寄附講義 会社研究	2	5	前		中級	社会人講義等運営委員会		16 1~4年生対象(2年以上優先)
	大分銀行寄附講義 地域と経済	2	5	後		中級		17 1~4年生対象(2年以上優先)	
	野村證券寄附講義 資本市場の役割と証券投資	2	5	後		中級		18 1~4年生対象(2年以上優先)	
	大分県弁護士会連携講義 法律の基礎と実務	2	5	後		基礎		19 1・2年生対象	
	連合大分寄附講義 働くということと労働組合	2	5	前		基礎		20	
	南九州税理士会寄附講義 租税の基礎と税理士の役割	2	5	後		基礎		21	

※○は選択必修である。

※IBPプレゼンテーションセミナーの単位は、実施期間により2単位又は4単位となる。

※インターンシップの単位は、実施期間により1単位又は2単位となる。

※学部共通科目は、どの学科にも所属しない専門教育科目の「選択」となる。

### 卒論・演習等

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	担当者	教員免許該当科目	備考
卒論・演習等	中級セミナー I	2	5	前	◎	中級	各担当教員		
	中級セミナー II・ サービス現場のフィールドワーク	2	5	後	◎			社会イノベーション 学科では「サービス 現場のフィールド ワーク」として開講。	
	演習 I	2	5	前	◎	応用			
	演習 II	2	5	後	◎				
	演習 III	2	5	前	◎				
	演習 IV	2	5	後	◎				
	卒業論文	6	5	通	◎				

※◎は必修である。

※演習の参加資格については、各自入学年度「履修の手引」を参照のこと。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K011A101	経済学入門(Introduction to Economics)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	1	経	前期	木1	氏名 経済学科教員 E-mail ich@oita-u.ac.jp(市原) 内線 7719											
授業の概要	経済学部すべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学習した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学習の基礎となる経済学の考え方ならび経済理論の政策への応用などについて学びます。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	経済学の考え方を説明できる。																
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。																
目標3	資本主義の特徴、国民所得と景気、市場の役割、金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。																
目標4	労働問題、社会保障、日本・世界経済の歩み、国際経済について基礎事項を説明できる。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	イントロダクション																
2	資本主義の一般的傾向																
3	市場経済のしくみ																
4	国民所得と景気																
5	財政のしくみとはたらき																
6	金融のしくみとはたらき																
7	労働問題と労働関係																
8	社会保障制度のしくみ																
9	日本経済の歩み																
10	世界経済の歩み																
11	公害と環境保全																
12	貿易と国際収支																
13	地域主義の動き																
14	発展途上国と国際問題																
15	まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業前の課題や講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	高校「政治・経済」の教科書の復習と予習課題の作成(20h)。															
	事後学修	講義内容の振り返り(14h)															
教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。																
参考書	高校「政治・経済」の教科書																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	予習課題	40%															
	授業回ごとのテストまたはレポート	60%															
注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。																
備考	内容については変更の可能性があります。また、受講生を2クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容1~14までの順序が若干異なることがあります。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K021A201	初級ミクロ経済学(Introduction to Microeconomics)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択必修	2	1	経	後期	金1	氏名 村山悠・小野宏 E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp・onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7716・7710									
授業の概要	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この講義では、ミクロ経済学の基本的なテーマである消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて理解することをねらいとする。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場という概念について具体的なイメージを形成できる。														
目標2	需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できる。														
目標3	市場の役割と市場の問題点を説明できる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	ミクロ経済学とは														
2	需要と供給(1) 需要・供給曲線														
3	需要と供給(2) 価格変動と需要・供給曲線のシフト														
4	需要と供給(3) 地価・消費税への応用														
5	需要曲線と消費者行動(1) 需要曲線の構造														
6	需要曲線と消費者行動(2) 市場需要と消費者余剰														
7	費用の構造と供給行動(1) 供給曲線と費用曲線														
8	費用の構造と供給行動(2) 利潤最大化行動														
9	市場取引と資源配分(1) 米価問題														
10	市場取引と資源配分(2) 間接税の影響														
11	市場取引と資源配分(3) 自由貿易の利益														
12	企業の参入・退出行動(1) 完全競争市場の長期均衡														
13	企業の参入・退出行動(2) 参入・退出による調整														
14	無差別曲線と効用														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業の最後に、まとめ等を記入してもらう機会を設けるようにする。					工夫	その他の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)													
	事後	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h)													
教科書	『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社														
参考書	講義中に適時紹介する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	定期試験	70%													
	小テスト・レポート等	30%													
注意事項	講義中の私語は禁止する。 詳細な注意事項は1回目の講義で説明する。														
備考															
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A202		初級政治経済学(Introduction to the Political Economy)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1	経	前期	木3	氏名 海 大 汎 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp 内線 7681											
授業概要	<p>・テーマ：市場経済と資本主義の基本構造</p> <p>・概要：本講義では、資本主義の母体としての西洋文明の大まかな特徴を踏まえて、政治経済学(Political Economy)の成立背景を理解し、そのうえで政治経済学の基礎知識と現代資本主義の動態について学習する。本講義の前半では、市場経済の構成ファクターと資本主義の形成原理について学ぶ。また後半では、現代資本主義を特徴づける経済の金融化をテーマとして、資本主義経済の現状と将来について考えてみる。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	資本主義と市場経済の違いを説明できる。																
目標2	資本主義社会の特殊歴史性を理解できる。																
目標3	グローバル化と経済の金融化から現代資本主義の動向を把握できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	政治経済学とは																
3	市場経済の理念と現実																
4	モノと商品																
5	貨幣生成の論理																
6	貨幣の役割																
7	資本とは何か																
8	労働力商品と賃金形態																
9	資本の生産過程																
10	資本主義の物神性と特殊歴史性																
11	市場経済は善玉か悪玉か																
12	資本主義 対 社会主義																
13	現代資本主義の金融経済化とグローバル化																
14	脱資本主義の二つの局面 - 福祉国家と新自由主義																
15	新しい社会への展望																
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 ニ C:応用志向 テ D:知識の活用・創造 ン グ	授業中に小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。										工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。															
	事後学修	[20h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。															
教科書	資料を適宜配布します。																
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>永谷清(著)『市場経済という妖怪 『資本論』の挑戦と現代』(2013)社会評論社。</li> <li>伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』(2018)平凡社。</li> </ul>																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト×2回	40%															
	学期末レポート	40%															
	授業への参加度	20%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A203		経営学入門(Introduction to Management)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1	経済学部	前期	火3	氏名 藤原 直樹・本谷 るり・松岡 輝美・碓 邦生 E-mail nfujiwara@oita-u.ac.jp (藤原), kunioik2@oita-u.ac.jp (碓), motoya@oita-u.ac.jp											
授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生諸君に対して、専門基礎としての講義を意識して行います。また、専門経営学各論への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。尚、コロナの感染状況によってはオンライン開催となります。その際には、受講生全員が「第A教室」のスケジュールで受講となります。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。																
目標2	経営学の基礎知識を理解し、説明できる。																
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	第A教室・第B教室 インTRODククション																
2	A 経営学の生成、テーマと問題の所在(担当:藤原) B 企業組織の成立と維持(1) 組織の捉え方(担当:本谷)																
3	A 経営学の生成、ドイツの事情(担当:藤原) B 企業組織の成立と維持(2) 組織の構造(担当:本谷)																
4	A 経営学の生成、日本の事情(担当:藤原) B 企業組織の成立と維持(3) 組織と人のかかわり(担当:本谷)																
5	A 企業組織の成立と維持(1) 組織の捉え方(担当:本谷) B 経営学の生成、テーマと問題の所在(担当:藤原)																
6	A 企業組織の成立と維持(2) 組織の構造(担当:本谷) B 経営学の生成、ドイツの事情(担当:藤原)																
7	A 企業組織の成立と維持(3) 組織と人のかかわり(担当:本谷) B 経営学の生成、日本の事情(担当:藤原)																
8	第A教室・第B教室 中間試験																
9	第A教室・第B教室 外部講師による講演会																
10	A デジタルトランスフォーメーション(製造業における事例)(担当:松岡) B 組織と働く人の関係(1) なぜ会社は従業員を雇うのか?(担当:碓)																
11	A デジタルトランスフォーメーション(小売業における事例)(担当:松岡) B 組織と働く人の関係(2) 仕事のできる人は見抜けるか?(担当:碓)																
12	A デジタルトランスフォーメーション(サービス業における事例)(担当:松岡) B 組織と働く人の関係(3) 人生100年時代のキャリア(担当:碓)																
13	A 組織と働く人の関係(1) なぜ会社は従業員を雇うのか?(担当:碓) B デジタルトランスフォーメーション(製造業における事例)(担当:松岡)																
14	A 組織と働く人の関係(2) 仕事のできる人は見抜けるか?(担当:碓) B デジタルトランスフォーメーション(小売業における事例)(担当:松岡)																
15	A 組織と働く人の関係(3) 人生100年時代のキャリア(担当:碓) B デジタルトランスフォーメーション(サービス業における事例)(担当:松岡)																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		授業毎に学生からの質問を受ける機会を設け、その内容についてフィードバックすることで、他の学生の意見を聞く機会を与える。特に実生活に活用可能な意見を多くとり上げ、受講生の応用力を高める。										工 夫 そ の 他 の		講義資料や参考文献をMoodleに公開し、学習を促進する。尚、対面式の講義を行う場合には資料をmoodleではなく、印刷したものを配布することがあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報が必要に応じて予習する(18h)。															
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した経済・経営関連知識を実際の生活場面と関連させて捉える(14h)。															
教科書	適宜講義資料を配布します。																
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	中間試験 前半担当教員2名各25%	50%															
	学期末定期試験 後半担当教員2名各25%	50%															
原則として、毎回出席をとります。三分の二以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。尚、出席の取り方については担当教員によって異なります。(各担当教員の初回にて解説します)																	
注意事項	1. 私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。																
備考	1. 講義において、学術利用のアンケートを実施する可能性があります。																
リンク																	
	URL																

教員の 実務 経験	シンクタンクにおける幹部候補養成講座の講師兼システム設計アドバイザー（松岡輝美）民間企業における人事領域の実務及び研究（礎）
実務経験を いかした教 育内容	実際に設計や開発に携わったシステムについての紹介

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A204		会計学入門(Introduction to Accounting)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1,2,3,4	経	前期	火2	氏名 越智 学 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp 内線 7700											
授業の概要	会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため、基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は、2年次以降に所属する学科を問わず、経済学部の学生全員が理解しておく必要があります。また、経済社会には会計を専門とする職業（税理士や公認会計士など）があります。それらの職業を目指す人にとっては、体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では、会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより、今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	会計の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。																
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定初級レベル）を行うことができる。																
目標3	企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から、会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	イントロダクション：簿記・会計とは																
2	簿記・会計の目的(1)：会計期間、貸借対照表																
3	簿記・会計の目的(2)：損益計算書																
4	会計報告書の作り方(1)：取引と勘定記入																
5	会計報告書の作り方(2)：仕訳と転記																
6	会計報告書の作り方(3)：商品売上の記帳(1)																
7	会計報告書の作り方(4)：商品売上の記帳(2)																
8	会計報告書の作り方(5)：現金・預金、貸付金・借入金の記帳																
9	会計報告書の作り方(6)：その他の資産・負債の記帳、仕訳帳と総勘定元帳																
10	会計報告書の作り方(7)：試算表の作成と月次の集計																
11	会計報告書の作り方(8)：決算と貸借対照表・損益計算書の作成																
12	会計情報の使い方(1)：財務諸表の構造と入手方法																
13	会計情報の使い方(2)：企業外部の利害関係者による財務諸表分析																
14	会計情報の使い方(3)：企業内部の経営者による経営状況の分析																
15	簿記・会計と職業（公認会計士の先生を招いた講演会を予定）																
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題（学生間の相談や教員への質問を含む）、授業後の復習課題（授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む）					工 夫 そ の 他 の	公認会計士等の実務家を講師として招聘し、講義内講演会を実施する予定である。実際の業務に関する講演を聞くことにより、会計専門職に関する知識を習得するとともに、今後の学習意欲を高める。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する（7h）。															
	事後学修	復習課題を解く（13h）。期末試験に向けた学習を行う（15h）。															
教科書	資格の大原（2021）『大原で合格の日商簿記3級（第3版）』中央経済社。（後期の「初級簿記」の教科書としても使用します。）																
参考書	谷武幸・桜井久勝・北川教央（2021）『1からの会計（第2版）』碩学舎・中央経済社。 滝澤ななみ（2022）『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記（第10版）』TAC出版。 滝澤ななみ（2022）『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記（第10版）』TAC出版。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	提出課題	25%															
	期末試験	75%															
注意事項	第2回目以降は毎回、電卓を持参すること。情報基盤センターの学習支援システム「Moodle」を使って演習問題の解答・解説などを配布するので、User IDとPasswordを確認しておくこと（Webメール等と同じものです）。																
備考	後期の「初級簿記」とは連動するため、併せて履修することが望ましい。																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K021A205		法学入門(Introduction to Juris prudence )					専門基礎科目 専門基礎科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択必修	2	1・2・3・4	経	後期	木1	氏名 小山 敬晴・金 康浩 E-mail taukappa09@oita-u.ac.jp・kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7692・7717												
授業の概要	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学への興味と関心を引き出すとともに、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。																		
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 法の基礎																		
2 憲法の基礎1																		
3 憲法の基礎2																		
4 刑法の基礎																		
5 労働法の基礎1																		
6 労働法の基礎2																		
7 国際法の基礎																		
8 裁判官の出張講義																		
9 民法の基礎1																		
10 民法の基礎2																		
11 民法の基礎3																		
12 商法の基礎1																		
13 商法の基礎2																		
14 商法の基礎3																		
15 民事訴訟法の基礎																		
ラーニング ポイント チェック コンテ ンツ マップ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					裁判例や具体的事件などを取り上げながら、理論的知識の定着を図ります。					工夫 その 他の							
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	裁判や法に関する新聞記事やニュースを見聞きする。(20h)																
	事後 学修	配布資料・教科書(六法)を用いて、復習する。(30h)																
教科書	講義中に指示します。																	
参考書	小川富之・下田大介編著『法学 人の一生と法律とのかかわり』(八千代出版、2018年) 「ポケット六法」または「デイリー六法」を持参してください。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	期末テスト	100%																
注意事項	他人の迷惑となる行為(特に私語)を禁止します。																	
備考	両担当教員が上記の内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の順番とは異なります。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A206		地域学入門(Introduction to Regional Studies)				専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1	経	後期	火3	氏名 宮町 良広・大呂 興平・甲斐 智大・城戸 照子・高島 拓哉・山浦 陽一 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町), ohro@oita-u.ac.jp (大呂), tkido@oita-u.ac.jp (城戸),										
授業の概要	経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なもの1つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。 各担当教員がリレー方式で講義を担当し、6人で合計15回の授業を行う。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し、説明できる。																
目標2 地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ、レポート等で文章表現できる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 地域の現象とフィールドワーク(1)(大呂担当)																
2 地域の現象とフィールドワーク(2)(大呂担当)																
3 多様な働き方と地域(1)(甲斐担当)																
4 多様な働き方と地域(2)(甲斐担当)																
5 地域における多文化共生(1)(城戸担当)																
6 地域における多文化共生(2)(城戸担当)																
7 地域における多文化共生(3)(城戸担当)																
8 地域社会における社会と空間(1)(高島担当)																
9 地域社会における社会と空間(2)(高島担当)																
10 地域社会における社会と空間(3)(高島担当)																
11 地域学は地域への好奇心から始まる(宮町担当)																
12 地域学と地域活性化(宮町担当)																
13 地域学レポートの書き方(宮町担当)																
14 地域としての農村(1)(山浦担当)																
15 地域としての農村(2)(山浦担当)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。				工夫 その 他の	関連文献や参考Webサイトの情報提供による調べ学習									
	B:意見の表現・交換	質疑応答と全体共有、授業終了前のミニッツペーパー、アンケート														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	各担当者が指示する(資料読解など、計15h)。														
	事後 学修	各担当者が指示する(レポート作成など、計30h)。														
教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。															
参考書	各担当者が指示する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	レポート(3課題)	100%														
注意事項	本授業は定刻開始、定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。															
備考	担当者の順番は変わります。オンラインまたは対面(密を避けるため2教室に分割)で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K021A207		イノベーション・マネジメント入門(Introduction to Innovation Management)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択必修 社会イノベーション学科は必修	2	1,2,3,4	経済学部	前期	火5	氏名 仲本 大輔・河野 憲嗣・豊島 慎一郎・中本 裕哉 E-mail daichan@oita-u.ac.jp (仲本), kouno-kenji@oita-u.ac.jp (河野), stoy@oita-u.ac.jp (豊島)												
授業の概要	イノベーションに関連するさまざまな理論をこれから学ぶ学生の皆さんに、専門基礎科目として幅広く講義していきます。イノベーションの担い手としての企業に着目した経営学からのアプローチだけでなく、イノベーションが経済におよぼす影響等についての経済学からのアプローチ、イノベーションが社会におよぼす影響等についての社会学からのアプローチも概観します。これらを通して、イノベーションをさまざまな角度からとらえることができるようになるのが本講義のねらいです。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	イノベーションに関連するさまざまな基礎的な専門用語や概念を理解し、説明できる。																	
目標2	イノベーションに関連する具体的な事例について、さまざまな角度から解釈し、説明できる。																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	イントロダクション																	
2	A教室：イノベーションと経営1(仲本) B教室：イノベーションと経営4(河野)																	
3	A教室：イノベーションと経営2(仲本) B教室：イノベーションと経営5(河野)																	
4	A教室：イノベーションと経営3(仲本) B教室：イノベーションと経営6(河野)																	
5	A教室：イノベーションと経営4(河野) B教室：イノベーションと経営1(仲本)																	
6	A教室：イノベーションと経営5(河野) B教室：イノベーションと経営2(仲本)																	
7	A教室：イノベーションと経営6(河野) B教室：イノベーションと経営3(仲本)																	
8	中間試験																	
9	A教室：イノベーションと社会1(豊島) B教室：イノベーションと社会4(中本)																	
10	A教室：イノベーションと社会2(豊島) B教室：イノベーションと社会5(中本)																	
11	A教室：イノベーションと社会3(豊島) B教室：イノベーションと社会6(中本)																	
12	A教室：イノベーションと社会4(中本) B教室：イノベーションと社会1(豊島)																	
13	A教室：イノベーションと社会5(中本) B教室：イノベーションと社会2(豊島)																	
14	A教室：イノベーションと社会6(中本) B教室：イノベーションと社会3(豊島)																	
15	まとめと振り返り																	
ラック ニテン イグ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	試験やレポートの作成を通じて理解が深まることを期待します。またそれらの実施に先立って双方向の質疑応答・議論の時間を確保します。その他、動画やLMS(Moodle)を活用します。					工夫 その他	随時、講義の中で具体的なイノベーションの事例を紹介します。その事例についてさらに文献やインターネット等で深く学んでください。										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	イノベーションに関連する記事やニュースを見聞してください(10h)。また、その現場を実際に見てみるようにしてください(5h)。講義で紹介したイノベーションに関する理論について、書籍等で復習とさらなる学習をしてください(20h)。また、現実との関連性を考えてみてください(10h)。																
教科書	適宜プリントを配付します。																	
参考書	・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。 ・近能善範・高井文子(2011)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	各教員の試験、レポートの総合評価	100%																
注意事項	・講義マナーを守って受講してください。 ・対面で実施する場合は、学籍番号で2つの教室に分けて講義を進めます。																	
備考	・2017年度以降の入学学生のみ受講可能です。 ・情勢に応じてオンラインでの実施に切り替える可能性があり、その場合は2つに分けずに講義を進める予定です。また、試験の実施の有無や方法についても変更の																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K022A201		外国書講読(Reading of Foreign Books)				学部共通科目 学部共通科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経済	後期	火3	氏名 木村 雄一  E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689											
授業の概要	民主体制、権威主義体制など政治体制はどのように決定されるのか。政治制度の民主化はなぜ、どのように起きるか。国際政治では Washington Consensus として知られており、中国などの政治体制の話題では常に言及される Lipset の Political Man (政治の中の人間)を読む。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	英語文献を精読し、その概要を自分の言葉で説明できるようになること																
目標2	論点の発見ができること。																
目標3	論点に基づいてコメント、議論ができること。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	本科目の動機付けについて、オリエンテーション																
2	前提知識の講義																
3	購読および議論																
4	購読および議論																
5	購読および議論																
6	購読および議論																
7	購読および議論																
8	中間 まとめ																
9	購読および議論																
10	購読および議論																
11	購読および議論																
12	購読および議論																
13	購読および議論																
14	購読および議論																
15	まとめと振り返り																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	毎回のトピックについてディスカッションを行う。議論により理解を深める。また論点を発見し、考えることを学ぶ。				工 夫 そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	当該箇所について、読み、理解して、論点を抽出、コメントを用意すること。毎回2-3時間を使う必要がある。															
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解。															
教科書	Seymour Martin Lipset. 1960. POLITICAL MAN: The Social Bases of Politics (Digitized by the Internet Archive in 2011 with funding from LYRASIS Members and Sloan Foundation)																
参考書	Samuel P. Huntington. 1991. The Third Wave: Democratization in the Late 20th Century. (第三の波：20世紀後半の民主化)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	準備と議論への貢献	100%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K021A208	ビジネス英語A (Business English A)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1	経済	後期	月3	氏名 Christopher White (経済), Christopher Burkart (経済) E-mail chris-white@cc.oita-u.ac.jp, cburkart@cc.oita-u.ac.jp 内線 6612 (White), 7951						
授業の概要	Through this introductory course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks. Practical work skills such as creating a cover letter and resume will ultimately lead to participation in a mock business interview. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 400-500+, enjoy practical speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment.											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette											
目標2	Improve presentation skills											
目標3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace											
目標4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	TOEIC practice											
2	TOEIC practice / writing emails											
3	TOEIC practice / group work											
4	Presenting information / giving & receiving feedback / delivery											
5	TOEIC practice / group work											
6	Reading & writing a resume / supporting opinions											
7	TOEIC practice / group work											
8	Being interviewed / Describing your background											
9	Interview skills / resume writing workshop											
10	Review											
11	Review Exam											
12	Explaining a problem / Giving and accepting and apology											
13	Responding to feedback / Asking for clarification / Checking understanding											
14	Company presentations											
15	Job interviews / Submission of final project											
ラーニング	A:知識の定着・確認	Review exam, group discussion and presentations, LTD, peer response, role-play scenario learning, internet research				工夫	computer-based research and/or interview of professionals					
ニテ	B:意見の表現・交換					その						
ン	C:応用志向					他						
グ	D:知識の活用・創造					の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	TOEIC practice, (4 skills learning), listening										
	事後学修	Extensive reading, using TOEIC reference materials to study outside of class, presentation preparation and interview practice, resume preparation.										
教科書	Students will be notified about the text on the first day of class. Students must bring a dictionary to class. Longman's Advanced Learner's Dictionary is recommended.											
参考書	Get that Job (BBC): <a href="http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/">http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/</a> Talking Business (BBC): <a href="http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/">http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/</a> Students should have the Oxford Business English Dictionary.											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Project / Job interview	25%										
	Presentation	25%										
	Unit test	20%										
	Moodle assignments	20%										
	Active participation	10%										
注意事項	-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a blended course (a portion of the classes will be held online via Zoom)											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
K021A209	ビジネス英語B (Business English B)					学部共通科目 学部共通科目	対面														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2	2,3,4	経済	前期	月3	氏名 Christopher Burkart (経済) E-mail cburkart@oita-u.ac.jp 内線 7951															
授業の概要	This course introduces students to the principles of microeconomics using English as the medium of instruction. Focus will be on developing economics-related vocabulary, reading and following instructions, and reporting results. Course instruction will be centered around student participation in economics experiments.																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Develop a basic understanding of economics vocabulary and concepts																				
目標2	Improve presentation and basic oral communication skills																				
目標3	Develop confidence in communicative skills and situations																				
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	Introductions and first experiment: Competitive Markets																				
2	Discussion of Competitive Markets Experiment																				
3	Experiment: Shifting Supply																				
4	Discussion of Shifting Supply Experiment																				
5	TOEIC practice / group work																				
6	Reading & writing a resume/ supporting opinions																				
7	TOEIC practice / group work																				
8	Being interviewed / Describing your background																				
9	Interview skills / resume writing workshop																				
10	Review																				
11	Review Exam																				
12	Explaining a problem / giving and accepting an apology																				
13	Responding to feedback / asking for clarification / checking understanding																				
14	Company presentations																				
15	Job interviews / submission of final project																				
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	Conduct experiments, group discussion and presentations, peer interaction.										工 夫 そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Thoroughly read and understand experiment instructions written in English. Learn any new vocabulary that is unfamiliar.																			
	事後学修	Summarize experiment results by preparing post-experiment lab reports.																			
教科書	Materials will be provided.																				
参考書	<a href="https://econclassexperiments.com">https://econclassexperiments.com</a>																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	Vocabulary quizzes	40%																			
	Experiment participation	20%																			
	Experiment reports	20%																			
	Content quizzes	20%																			
注意事項	-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a blended course (a portion of the classes will be held online via Zoom)																				
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K022A202		海外フィールドワーク(Oversease fieldwork)				学部共通科目 学部共通科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	3,4	経済	前期	月5	氏名 木村 雄一, 小笠原 悟 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp, ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7689(木村)・7713										
授業の概要	テキサス州オースティン、およびアメリカ西海岸の歴史、産業と経済、政治、人々の暮らしについて、講義時間と各自の準備により情報収集し、学ぶ。その後、夏季休業中にオースティンおよびロサンジェルスへ渡航し、企業など各地訪問、フィールドワークを行う。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 テキサスの歴史、経済・産業・環境や人々の暮らしについて概観的な理解を得ること。																
目標2 渡航中にインタビューで情報収集するため、各自の問題意識を設定し、質問事項リストを作成する。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 インTRODクシヨ、調整																
2 History of Texas, Ch. 1,2																
3 History of Texas, Ch. 3,4																
4 History of Texas, Ch. 5,6																
5 History of Texas, Ch. 7,8																
6 History of Texas, Ch. 9,10																
7 History of Texas, Ch. 11,12																
8 議論および調整																
9 The Economist, Austin/Texas 関連記事1,2,3																
10 The Economist, Austin/Texas 関連記事4,5,6																
11 The Economist, Austin/Texas 関連記事7,8,9																
12 The Economist, Austin/Texas 関連記事10,11,12																
13 The Economist, Austin/Texas 関連記事13,14,15																
14 訪問箇所に合わせた質問項目を各自考案する1																
15 訪問箇所に合わせた質問項目を各自考案する2、																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		毎回、全員に発言の機会が用意されるので、該当の教材を読み、発言の準備をして臨んでほしい。報告形式にするかもしれない。		工 夫	そ の 他 の				
時間外学修の内容と時間の目安	準備	次回の教材を読み、発言の準備をして臨むこと。毎回出席すること。														
	事後	読むべき教材が多い。読破し、次回に備えることを心がけてほしい。														
教科書	歴史について、History of Texas: A Captivating Guide to Texas History, Starting from the Arrival of the Spanish Conquistadors in North America through the Texas Revolution to the Present: Kindle で 400円ほど、100ページほどの薄い本で、そこからさらに選択的に読む。															
参考書	現在のテキサスおよびオースティンについて、The Economist の関連記事が20-30編あるので、こちらも選択的に読む。現在のテキサスおよびオースティンについて、中絶法、移民、経済ではアウトソーシングと雇用が注目トピックのようなので、The Economist から、それらを中心にチェックしていく。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	準備と議論への参加	100%														
注意事項	渡航は8月末から9月第一週を予定している。参加者の費用負担金額は4月時点では確定していないが、通常、航空券代金までは補助される。詳細は分かり次第アナウンスする。															
備考	テキサス州について情報収集するにあたり、日本語の情報源は乏しく、英語が主体になる。翻訳AIを使って読んで良いが、それらのソフトウェアを器用に使いこなせること、また、読んだものの論点を自分で表現できることが必要である。															
リンク	リーディングリストDropBoxリンク															
	URL <a href="http://bit.ly/3XR3wxE">http://bit.ly/3XR3wxE</a>															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		IBPプレゼンテーションセミナー(Presentation Seminar for IBP)				学部共通科目 学部共通科目		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択必修	4	3	経済	後期	月5,月6	氏名 市原 宏一、安田俊介、加納 拓和、柴田 茂紀 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719												
授業の概要	1年間の協定校での留学による学習成果をもとにして、国際公務員、外国企業勤務、海外ボランティアなど国際社会での活躍を志望する人材アドミッションポリシーとして「国際化、情報化などに対応できる能力」をさらに一層深化させることを目的とします。これにより、国際的に活躍できる企業人・公務員の育成を進めるものです。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 留学によって修得したコミュニケーション能力の伸長																		
目標2 留学を通じて広めた社会経済文化に関する知見を踏まえ、演習や卒業論文の基礎として整理します。																		
目標3 論文作成技法、プレゼンテーション能力の伸長																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 第1班テーマ報告																		
3 第2班テーマ報告																		
4 第3班テーマ報告																		
5 第4班テーマ報告																		
6 テーマについての相互評価グループワーク																		
7 第1班中間報告																		
8 第2班中間報告																		
9 第3班中間報告																		
10 第4班中間報告																		
11 成果報告についての相互評価グループワーク																		
12 第1班最終報告																		
13 第2班最終報告																		
14 第3班最終報告																		
15 第4班最終報告																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	・中間発表、留学に際して、ないしは留学を契機に学修した内容を個々に整理したうえで、複数回にわたり発表し、教室全体で協働学習します				工夫	その											
	B:意見の表現・交換	・最終発表として、公開成果報告として、これら体験活動について、授				夫	他											
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回の報告に向けて発表原稿・スライドを作成し、作成したスライドファイルを中間報告の事前に送付すること																
	事後学修	授業に際して指摘を受けた部分について発表原稿・スライドを修正しておくこと																
教科書	特になし																	
参考書																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	テーマ及び中間報告	40%																
	最終成果報告プレゼンテーション	60%																
注意事項	IBPによって交流協定校への留学を行った学生が対象です。IBP教育プログラム修了要件です。																	
備考	IBPコース1年生は、事前準備として報告会への参加が義務づけられます。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式											
K021A211		農山漁村再生論(Revitalization of rural areas)					学部共通科目 学部共通科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2		経	後期集中	他	氏名 山浦陽一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688														
授業の概要	「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。現地に宿泊しながら、地域の皆さんとともに農村再生の実践活動に取り組むことを通じて、農山村の実態や課題、解決策や必要な支援について考えます。前期の農村再生セミナーが現地活動のみなのに対し、この農山漁村再生論は理論や方法等の座学も取り入れます。プログラムは2月後半、もしくは3月前半実施予定です。詳細は、1月ごろに確定させ掲示します。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	農山村の実態や課題、解決策や必要な支援についての理解を深める																			
目標2	当事者の一人として課題解決にかかわる																			
目標3	課題解決のための理論や手法を習得する																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンス・アイスブレイク																			
2	農山漁村の課題と背景の解説																			
3	農山漁村の課題と背景の解説																			
4	再生の事例と手法の解説																			
5	再生の事例と手法の解説																			
6	対象地域での地域概況把握																			
7	対象地域の社会・経済のデータ整理																			
8	対象地域の意向調査・意見交換																			
9	対象地域の意向調査・意見交換																			
10	調査結果取りまとめ																			
11	ワークショップ設計																			
12	ワークショップ試行																			
13	ワークショップ実施																			
14	ワークショップ実施																			
15	振り返り・まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義中はペアワーク、グループワークを積極的に取り入れます。学生同士でお互いに説明し、また議論をすることで、理解を深め、またチームワークの向上を目指します。					工夫	その他の	座学、フィールドワーク(調査・ワークショップ)を組み合わせることで、学習効果を高めます。											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	講義開始前に、対象地域の概況やフィールドワーク、ワークショップについての資料を収集し、理解する。時間は資料収集60分、理解60分、整理30分程度。																		
	事後学修	ヒアリングの整理や、ワークショップの設計等、講義中に終わらなかった作業を実施。時間は1回あたり30-90分程度。																		
教科書	特に指定しません。																			
参考書	特に指定しません。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	講義中の発言・行動の内容から判断します	100%																		
注意事項	本講義は集中講義として行います。また基本的に受講できるのは「農村発展論」やゼミ等「田舎で輝き隊！」関連プログラムを受講している(していた)学生に限定します。地域や宿泊施設等の都合で人数も限定します(10-15人程度)。																			
備考	座学+合宿形式で、地域の皆さんと農山漁村再生のあり方を考察・実践するプログラムです。短期集中で体も頭も使いながら、プレーヤーの一人として活動します。主役は皆さんです。是非一緒に地域を盛り上げましょう!																			
リンク																				
	URL																			



担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	人事担当者、営業担当者、企画担当者、開発担当者
実務経験を いかした教 育内容	企業等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに適切な自己認識や社会人として必要なマナー、責任感を習得する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K022A204	会社研究(Business Study)					学部共通科目 学部共通科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択必修	2	1,2,3,4	経	前期	水3	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698									
授業の概要	企業には様々な事業領域があり、また、行政のサービスも多様です。学生の皆さんには、これが十分に理解されていないことも多いと思われます。このような企業や行政の実際についての知識を得ることは、経済学部学生として他の授業内容についての一層の理解に役立つものと考えます。そして、この授業で得た知識を就職の際に生かして職業選択にも役立ててもらいたいと考えています。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業などの実社会の現状と課題を説明することができる														
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	交通														
2	銀行														
3	旅行														
4	通信														
5	食品														
6	輸入														
7	製造														
8	百貨店														
9	商社														
10	I T														
11	国家公務員														
12	地方公務員														
13	物流														
14	保険														
15	まとめ														
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。	工 夫 そ の 他 の												
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義予定の業種、企業については、図書館・ネットを使い事前に概要を調べておくこと(15h)。													
	事後学修	講義内容を基に業界や行政の研究を進める(15h)。													
教科書	各講師が必要に応じて指定します。														
参考書	各講師が必要に応じて指定します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の講義時のレポート	60%													
	期末試験	40%													
欠席(レポート未提出)が5回以上の場合は単位認定は行いません。															
注意事項	各回の内容は講師の都合により変更することがあります。														
備考	講師は各界の第一線で活躍されている本学部の同窓生の皆様等です。経済学部同窓会「四極会(しはすかい)」寄附講義として、その支援、協力により開講します。企業や行政における具体的な仕事内容、将来の方向、仕事の面白味、その他体験談などのほか、企業など各界で望まれる人物像についてお話し頂きます。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A205	地域と経済(Local Areas and Their Economics)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経	後期	水3	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	県内外の行政、産業界等において中心的立場を担う、あるいは担ってきた方々が現実の地域経済のなかで、見、聞き、行動して得た「地域と経済」への考え方を理解してもらいます。これらを通じて、現実の地域経済が抱える課題についての理解を深め、学問体系としての地域経済の理論の補強を目指します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	地域における経済社会の実状と課題を説明することができる											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	食品製造											
3	食品関連											
4	観光レジャー											
5	事務機器											
6	IT											
7	会計											
8	サービス											
9	銀行											
10	金融											
11	公的金融											
12	自動車											
13	製紙											
14	マスコミ											
15	まとめ(授業評価アンケート・評価の方法の通知など)											
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				工夫 その他	本講義では地域経済に関する幅広い分野の話聞けるよう社会人講師による講義を行います。講師は地域経済の第一線で活躍されている経営者・リーダーの皆様です。					
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	講義予定の業種・企業等については、事前に図書館・ネットを使い概要を調べておくこと(15h)。										
	事後 学修	講義内容を基に業界や行政、地域経済についての研究を進める(15h)。										
教科書	テキストは使用しません。											
参考書	各講師が必要に応じて指示します。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	講義におけるレポート	60%										
	期末試験	40%										
欠席(レポート未提出)が5回以上の場合は単位認定は行いません。												
注意事項	講義中に質問時間を取ります。学外から貴重な時間を割いて来られる講師の方々へ報いるような、学習意欲の高い受講生を求めます。											
備考	大分銀行寄附講義として、その支援、協力により開講します。講師が所属する組織の地域経済との関係及びその歴史、大分県の地域経済の変化と課題及びその将来像について、地域経済を支える人材と資源・技術、情報の実態を踏まえたお話を頂きます。また、地域経済社会で望まれる人物像についてご教示頂きます。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A206	資本市場の役割と証券投資(Role of the Capital Markets and the Securities Investment)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経	後期	水4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容とリスク&リターンの考え方、株式や債券・投資信託など証券投資に必要な基本的知識をわかりやすく、実務の観点から解説します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	社会人になってからも実践的に役立つ金融知識の習得											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	経済情報の捉え方											
3	金融市場の役割とその変化											
4	証券投資のリスク・リターン											
5	ポートフォリオ・マネジメント											
6	債券市場の役割と投資の基礎知識											
7	株式市場の役割と投資の基礎知識											
8	投資信託の役割とその仕組み											
9	日本の株式市場の歴史											
10	これからの日本と資本市場の果たす役割											
11	資本市場における投資家心理											
12	資産運用とライフ・プランニング											
13	産業展望と投資の考え方											
14	世界の金融資本市場展望											
15	総括											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	チーム単位の投資活動に関するワークショップを行い、グループ報告を してもらいます。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	講義内容に関する予習学習(15時間)										
	事後 学修	講義で出された課題の学習(15時間)										
教科書	資料は毎回、配付予定です。											
参考書	講義で紹介します。											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	授業回ごとのレポート	60%										
	期末テスト	40%										
注意事項	毎回出席をとります。											
備考	大分銀行大分支店(野村証券)の寄附講義として、同社の支援、協力により開講します。 講師は、野村証券株式会社をはじめとする野村グループの管理職や専門職です。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A212		法律の基礎と実務(Legal Basis and Practice)				学部共通科目 学部共通科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1,2	経	後期	火5	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698										
授業の概要	大分県弁護士会の法教育委員会に所属し、第一線で活動する複数の弁護士がリレー形式で講義を行う。社会人への第一歩を踏み出した受講生のために、社会人として最低限知っておくべき法知識を身につけてもらうことを目的とするが、アカデミックな法学の授業にとどまらず、裁判例や担当弁護士が日々取り組む実務の体験談を交えることで、ダイナミックな法律実務の世界を体感し、弁護士を身近な存在として認識してもらいたい。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 法学の世界を体感する。																
目標2 代表的な法分野の基礎について理解する。																
目標3 法曹の仕事を知る。																
目標4 双方向の講義を通じて論路的な思考力・表現力を身につける。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス																
2 債権法の基礎 (1)																
3 債権法の基礎 (2)																
4 不動産と法																
5 会社と法 (1)																
6 会社と法 (2)																
7 労働者と法																
8 民事紛争の解決法																
9 家族法の基礎 (1)																
10 家族法の基礎 (2)																
11 刑事法の基礎 (1)																
12 刑事法の基礎 (2)																
13 インターネットと法																
14 主権者と法																
15 講義のまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講者の積極的な発言を求める。				工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	新聞やテレビのニュースによく触れておくこと。(20h)														
	事後	講義で触れた重要箇所を適宜復習すること。(25h)														
教科書	特に指定しない。															
参考書	特に指定しない。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	平常点	50%														
	期末レポート	50%														
注意事項	・双方向性の授業を予定しているため、受講者数を50名に制限します。そのため、履修登録だけでなく、「受講申込書」の提出が必要です(選考があります)(履修登録後、Moodleを各自で確認)。															
備考	・最新の小型六法(ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂))を用いて学習に取り組むことが望ましい。 ・本講義は、大分県弁護士会との連携講義として、大分県弁護士会会員弁護士による講義を行う。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	弁護士
実務経験を いかした教 育内容	様々な分野で活躍する担当弁護士が、生きた法学の世界を伝える。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A207	働くということと労働組合(Work and Trade Union)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経	前期	水4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	労働・仕事とは「働くということ」を通じて社会に参加することです。よりよい社会やよりよい仕事環境にしていくためには企業だけでなく、働いている人自らが労働環境をよりよくする取り組みに参加する必要があります。職場では賃金・労働時間をはじめとする仕事のルールがどのように決まり、それがいかに社会と関係しているのか、労働組合の第一線で活躍されている方にお話ししてもらい、今後の職業選択において多様な視点をもってもらうことを目指しています。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	働く上での具体的な諸問題を理解し、解決に向けて考える姿勢とそのための知識を得ることができる。											
目標2	労働組合の役割、企業経営の意義を自ら考える能力を得ることができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス：働くということと労働組合											
2	課題提起：労働組合の役割											
3	課題提起：労働組合と労働行政											
4	課題提起：労働組合と経営者											
5	労働組合と政策：労働組合が目指す政策・制度											
6	労働組合と政策：若年雇用問題の解決を探る											
7	労働組合と政策：男女平等参画社会を目指して											
8	労働組合と政策：非正規労働問題への対応											
9	グループワーク：労働組合の必要性											
10	グループワーク：賃金と労働組合											
11	グループワーク：労働時間と労働組合											
12	グループワーク報告：賃金問題											
13	グループワーク報告：労働時間問題											
14	グループワーク報告：性差別への対応											
15	総括											
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義とワークショップを組み合わせで行います。				工夫 その 他の	グループ発表を行います。					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前提示レジュメ・資料の理解(22.5時間：1回1.5時間)。										
	事後	レポートの作成および振り返り(22.5時間：1回1.5時間)。										
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。											
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業レポート	50%										
	グループワーク	50%										
欠席が5回以上の場合	単位認定を行いません。											
注意事項	労働組合の第一線で活躍している方を講師としてお招きします。講師・受講生ともに快適な環境作りにご協力お願いします(私語は講師・受講生に対する迷惑行為ですので、謹んでください)。											
備考	労働組合・連合(日本労働組合総連合)大分の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 後半戦はグループ報告を行います。欠席すると単位が出せなくなりますので、毎回の参加ができる方の受講をお勧めします。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A208	租税の基礎と税理士の役割(Basis of Tax and Role of Certified Public Tax Accountant)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経済	後期	木4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	本講義は、南九州税理士会の寄付により開講します。本学部や本学経済学研究科出身の税理士を中心とした講師により、わが国の租税制度と税理士の役割について、実務に基づいた内容の講義を進めます。日本の租税制度を理解してもらいつつ、税理士という仕事の役割や今後の課題についての講義を展開します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本の租税の基礎を修得し、その役割を理解することができる。											
目標2	税務に携わる税理士の役割について理解し、今後の税務における課題を考えることができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション「現代社会における税理士の使命」											
2	租税の歴史と租税のもつ役割											
3	法人税概論											
4	税理士制度と税理士の役割											
5	所得税概論											
6	国税業務について											
7	資産税概論(相続・贈与・資産税)											
8	消費税概論											
9	税理士の仕事(租税の専門家)											
10	税理士の仕事(企業のアドバイザー)											
11	租税争訟制度について											
12	税理士と社会貢献(公益的業務)											
13	中小企業会計基準とは											
14	経営革新と企業再生について											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				工夫 その他						
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	各回の講義の前に講義対象となる日本の租税制度および租税業務について調べておいてください(15h)。										
	事後 学修	講義内容の振り返り(15h)。										
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。											
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義におけるレポート	60%										
	期末試験	40%										
	提出回数が開講数の3分の2以下の場合には単位認定は行いません。											
注意事項	税務の第一線で活躍されている税理士の方々を講師としてお招きします。講義に講師・受講生が集中できるよう快適な環境作りを心がけてください(私語は講師、他の受講生に対しての迷惑行為です)。											
備考	・南九州税理士会の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 ・税理士希望の学部生のみならず、日本の税制に関心を持ち、経済社会における租税の基礎と役割を深く学びたいと考える学生の受講をお勧めします。											
リンク	URL											